

第 41 期第 14 回理事会議事録

日 時：2022 年 2 月 15 日（火） 15 時 10 分～18 時 10 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳曉典，池上雅明，植田宏昭，榎本剛，小池真，齋藤篤思，
佐藤正樹，坪木和久，中村尚，橋本明弘，早坂忠裕，平松信昭，廣岡俊彦，
堀之内武，三好建正，渡部雅浩，以上 18 名（理事数現在 19 名）

出席監事：鈴木靖，吉田聡，以上 2 名

その他の出席者：勝山税，齋藤誠一郎，山田眞吾（事務局）

議題等

冒頭，塩谷雅人理事のご逝去を悼み，黙とうを行った。

1. 協議事項

1) 会員の新規加入等について

新入会 36，退会 109 を全会一致で承認した。2022 年 2 月 10 日現在，会員数 3,244 名で
個人会員は 3,050 名。

2) 第 41 期第 13 回理事会議事録の確認

全会一致で承認した。

3) 2022 年度事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みについて

収支を赤字にしないことを基本的な考え方として予算案を作成した。全会一致で承認
した。

2. 報告事項

1) 各 WG からの報告

① ウィズ/ポスト・コロナ時代の大会のあり方 WG

WG の提言は昨年秋の理事会で承認されており，今年度で WG は終了と考えてい
る。検討が必要な際は改めて開催する。

② 財政改善検討 WG

次回会合を 3/7 に開催予定。第 15 回理事会で WG のまとめを示す。

寄付の促進については，一般寄付金よりも特定寄付金を募ること，クレジットカード
等納付方法の拡充，税制優遇措置の周知，寄付者へのフォローアップ，HP で気
象学会が社会に貢献している団体であると伝えること等が重要であるとの報告があ
った。

③ 日本気象学会各賞のあり方検討 WG

以下の修正案が示された。次回理事会で規定改定の議論，総会で説明を行う。

・学会賞と正野賞の違いを明確にする。

・学会賞と正野賞の表彰時期をあわせ，正野賞候補者に学会賞相当の研究をしたと
みなせる候補者がいれば，学会賞候補者とする。

・堀内賞の募集時に対象となる業績を明確化する。規定は変えない。

- ・山本賞が論文賞であることを明確にする。年齢制限を外し、キャリアの制限のみにする。

2) 業務執行理事の報告

庶務担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

- ・転載許可

なし

- ・後援名義等使用依頼受付

① 名称：原子力総合シンポジウム

主催：日本学術会議（幹事学会：一般社団法人日本原子力学会）

期日：2022年1月17日

場所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

名義：共催

② 名称：第26回「震災対策技術展」—自然災害対策技術展—

主催：「震災対策技術展」実行委員会（委員長 重川希志依（常葉大学大学院教授））

期日：2022年2月3～4日

場所：横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）

名義：後援

③ 名称：第36回北方圏国際シンポジウム

主催：紋別市

共催：北海道大学北極域研究センター、北極域研究共同推進拠点（J-ARC Net）

期日：2022年2月11～28日

場所：紋別市民会館，紋別市立博物館，北海道立オホーツク流氷科学センター，北海道大学北極域研究センターほか

名義：後援

④ 名称：第27回計算工学講演会

主催：一般社団法人 日本計算工学会

期日：2022年6月1～3日

場所：にぎわい交流館 AU（秋田県秋田市）

名義：協賛

⑤ 名称：TRC スペシャル1～日本初の台風専門研究機関，誕生～

主催：横浜国立大学 国立横浜大学先端科学高等研究院 台風科学技術研究センター

期日：2022年3月13日

場所：YouTube ライブ・ツイキャス（予定）

名義：後援

- ・寄付者リスト（2021.12.1～2022.2.14）

なし

会計担当理事・・・以下の内容が報告された。

- ・2021年11月、12月、2022年1月分の収支及び現預金検査報告。
- ・流動資金（運転資金）の月別推移。

企画調整担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

- ・「天気」などで周知する2022年度総会告示（理事長）と総会参加（理事会）の内容
- ・日本気象学会メールニュースの発行と編集方針について
会員サービスの向上のため毎月月末にメールニュースを発行する。WEBページ更新の水先案内として、イベント情報、天気の日次、緊急ニュース等を掲載する。
新たな作業だが負担は少ないため、まずは事務局が行う。
- ・研究連絡会の2021年度活動報告と2022年度活動計画
- ・研究連絡会実施報告書（気象学史研究連絡会）

3) 委員会報告

講演企画・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年度春季大会の準備状況。ノーベル賞受賞記念特別シンポジウムは、5名に講演頂く予定。ビデオの管理について検討が必要である。
- ・2021年度秋季大会決算報告
- ・2021年度秋季大会アンケート結果

天気編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol.69 No. 2, 3 (2022年2, 3月) の掲載記事と, vol. 69 No. 4, 5 (2022年4, 5月) の予定記事の報告。
- ・掲載料免除申請1件。要件を満たしているので許可する。

気象集誌・・・以下の内容が報告された。

- ・記念すべき100号 秋の学会で科研費の5年目スペシャルセッションを計画中
- ・Vol. 100 No. 1 (2022年2月) の掲載予定論文。
- ・審査中の論文リスト。

SOLA・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年の論文投稿・公開状況（2月10日時点）：投稿論文数11編、公開論文数3編、印刷中（早期公開済）7編。
- ・特別号企画、JMSJ 合同特別号「近年多発する極端気象に関する研究」：論文投稿受付中。
- ・2021年 SOLA 論文賞の決定。

表彰関連・・・以下の内容が報告された。

- ・「日本気象学会賞」「藤原賞」「岸保・立平賞」の推薦について、各賞の候補者推薦委員会より候補者が提示され、推薦理由について確認を行った。
- ・2021年度秋季大会の松野賞候補者の選定結果。

学術委員会・・・塩谷委員長のご逝去に伴い、早坂副委員長が代行する。

気象災害・・・以下の内容が報告された。

- ・日本学術会議と防災減災学術連携委員会の合同シンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」が5月9日に開催される。地球温暖化と自然災害の変化のテーマに関して、気象学会として発表を行いたい。

教育と普及・・・以下の内容が報告された。

- ・気象サイエンスカフェつくばの開催計画。「雪氷圏における気候変動と気象防災」のテーマで、日本雪氷学会 関東・中部・西日本支部の共催で開催する。
- ・気象教育セミナーの開催報告。
- ・ジュニアセッションの準備などの進捗報告。

国際学術交流・・・以下の内容が報告された。

- ・小倉レクチャについて、理事会の前に行われた支部長会議において、北海道支部から2022年度秋季大会におけるレクチャの実施の有無を早急に決めてほしい旨の要望があり、理事会は同大会での実施を見送ることとした。
- ・次回小倉レクチャは2023年度の東北大会での実施を検討する。実施する場合は会場の確保が必要であるため、会場費を基金から支援することを検討する。

電子情報委員会・・・以下の内容が報告された。

- ・ホームページ改善案を作成中。

4) 理事長報告

- ・日本地球惑星科学連合（JpGU）2022年大会パブリックセッションでの気象学会作成の眞鍋先生ノーベル物理学賞受賞記念講演会日本語字幕版動画の使用許可願いが田近 JpGU 会長から寄せられた。眞鍋先生からは、気象学会で了解すれば動画を JpGU で上映しても良いとのことから、気象学会は JpGU に協力することとした。
- ・塩谷雅人理事のご逝去について、天気には訃報、追悼文を掲載する。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2022年 3 月 24 日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖

監事 吉田 聡